

〔草花・野草〕

ここでは7～9月に見られる野草をまとめました。文中に示した「花期」は図鑑によるもので、必ずしも当地で花が見られる時期とは限りません。当地では表示時期より早めに終わってしまったり、遅めに見られたりする種類も多いようです。特に、今年は、7月の草刈りで根こそぎ刈られて回復しなかったり、草刈り後、例年のない酷暑の連続で花が枯れてしまった場合も多く見られました。観察日当日に見られるのはごくわずかだと思います。ここに示した野草図鑑は、また来年の参考にしてください。

なお、植物名に 印をつけたものは帰化植物です。

**アカバナ**（赤花） アカバナ科 花期；7～9月

場所；6号棟 - 中央広場間の通路両側など

名は秋に葉が紅紫色に染まることからつけられた。山野の水湿地に生える多年草。

写真 14 7/8



**イタドリ**（虎杖）タデ科

花期；7～10月

場所；10号棟北西の陸橋両側

虎杖は漢名。根茎を乾燥したものを虎杖根(こじょうこん)と呼び、緩下剤などにする。タケノコそっくりの若い茎は酸味があり、生で食べられる。山野のいたるところに生える多年草。

当地の花期は9月に入ってから。 写真 13 9/17

**イヌタデ**（別名アカマンマ）

タデ科 花期；6～10月

葉に辛みがなく、役に立たないという意味からつけられたもので、ヤナギタデに対する名。小さな赤い花を赤飯に見立てて、アカマンマと呼び、子供がままごとに使った。

写真 13 9/27



**イモカタバミ** カタバミ科 花期；4～9月

場所；中央広場7号棟寄りなど

ムラサキカタバミによく似ているが、芋のような塊茎によってふえる。花はやや色が濃く、数も多い。

写真 14 7/8



**ウリクサ** ゴマノハグサ科 花期；8～10月 場所；団地南入口のサツキの列の南端

果実の形がマクワウリに似ていることによる。畑や空き地、庭のすみなどにごく普通に見られる 1 年草。春の花のムラサキサギゴケの仲間。

写真 15 8/16

**エノコログサ** (別名ネコジャラシ) イネ科

花期；8～11月

花穂を子犬のしっぽに見立てたもの。花穂で猫をじゃらすので、ネコジャラシともいう。日当たりのよい道ばたや荒地などにごく普通に生える1年草。品種にキンエノコログサ、ムラサキエノコログサがある。



写真 13 9/27  
写真左から  
エノコログサ (13 8/24)  
キンエノコログサ (9/27)  
ムラサキエノコログサ (9/27)

**オオバコ** オオバコ科 花期；4～9月

葉が広く大きいことによる。漢名は車前草で、牛車や馬車が通る道ばたに多いからという。日当たりのよい道ばたや荒地などにふつうに見られる多年草。

ただし、近年は外来種のヘラオオバコに追われて、ほとんど見られなくなっている。写真は珍しく上野公園で群生を見かけた。

写真 15 7/12 上野公園にて



**オニユリ** ユリ科 花期；7～8月



古くから栽培され、人里近くにしばしば野生している多年草。  
写真 15 7/27

**カタバミ** カタバミ科 花期；5～7月

葉が睡眠運動をし、夕方になって閉じると一方が欠けて見えることによる。庭や道端などにふつうに見られる多年草。

花は曇りや雨の日にも閉じる。花期は上に示すが、条件さえよければ1月でも花が見られた。

写真左 13 8/24

写真右 15 8/16

連日の猛暑で水不足のためか閉じた葉、半開きの花



**キツネノマゴ** キツネノマゴ科

花期；8～10月

道ばたなどにふつうに見られる高さ 10～40センチの1年草。花は淡紅紫色の唇形花で、穂状に密集してつく。

Wikipediaによれば、「名前の由来はよく分かっていない。花序が花の咲いたあとに伸びるのがキツネの尾のようだとか、花の形がキツネの顔を思わせるからなどの説も見かけるが、根拠に乏しい。」とある。



写真 13 8/18, 8/28

**クズ** マメ科 花期；7～9月

山野にふつうに見られるつる性の多年草。繁殖力が旺盛で、放置するとあたり一面、野も丘も木々も包みこんでしまう。田舎などでは、木化した太い幹が、木に巻きついて見られる。

根からとったでんぷんが葛粉。名は大和(奈良県)の国栖(くず)が葛粉の産地であったことによる。秋の七草のひとつ。当地では開花は9月。



(左) クズの花 13 9/17 (中) 地を這うクズ 13 8/2 (右) 木に巻きつき木化したクズ 13 9/11 会津にて

**ゲンショウコ** フウロソウ科 花期；7～10月 場所；東法面など

山野にふつうに見られる多年草。ゲンショウコといえば漢方を思い浮かべるが、花がかわいらしい。花の色は、東日本は白花、西日本は赤花といわれるが、当地の花は赤い色である。

昨年は東法面のいつもの場所でぜんぜん花が見られなかったが、今年は保護指定しているので間もなくかわいらしい花が見られるはずである。

(左) ゲンショウコの葉  
葉の特徴に注目 15 7/20

(右) 花 13 9/9



**コバンソウ** (別名タワラムギ) イネ科 花期；5～7月 場所；3号棟南東端、銀杏の根元

黄褐色に熟した小穂の形を小判や米俵に見立てたもの。小穂の形が独特なので、よくドライフラワーとして利用される。ヨーロッパ原産の1年草。明治時代に観賞用として輸入され、現在では本州中部以南の海岸や砂地などに、しばしば野生化し大群落を作っている。



(左)コバンソウの小穂 14 5/19 (中)7月下旬の状態 15 7/27 (右)この銀杏の根元と3号棟南東端に生えていた

### シロツメグサ (クローバー)

マメ科 花期; 5~8月

江戸時代にオランダからガラス器を送ってきたとき、壊れないように乾燥したシロツメグサを詰めものにしたことから詰草(ツメグサ)の名が生まれた。ヨーロッパ原産の多年草で、牧草として世界中に広がり、日本でも全国に見られる。



写真;シロツメグサの葉と花 15 7/27

### タカサゴユリ ユリ科

花期; 7~9月 場所; 10号棟北側法面を中心に、東法面、居住区内に広がる

台湾原産の帰化植物。風媒花で、種子を大量に風散布し広がる。当初は北法面の10号棟北側付近に見られたが、現在では居住区内や東法面にも見られる。



写真はタカサゴユリとその群生 (14 8/18)

### ツククサ (別名ボウシバナ)

ツククサ科 花期; 6~9月

別名の帽子花は苞の形によるもの(右写真)。

古くは花の汁をこすりつけて布を染めたことからツククサ(着草)とも呼んだ。道ばたや草地などにごく普通に生える1年草。花は1個ずつ苞の外にでて開き、半日でしぼむ。



写真はツククサの正面と横からのもの 13 8/7

### トキワツククサ ツククサ科 花期; 5~8月 場所; 居住区や法面の低木の根元など

南アメリカ原産。日本には昭和初期に園芸植物として渡来したが、現在では野生化している。

日本のツククサとは違い、三角形の小さな白い花を咲かせる。やや湿っている日陰や水辺に生え、群落を形

成する。

当初、バス停裏の緑化ブロックの下で見つけたので、これも工事で運ばれたのかと思ったが、その後、居住区や法面の低木の根元など、何か所も群生しているのが見つかった。多摩市の植物目録にも載っていた。つまり、当地だけでなく、かなり広い範囲に広がっていることが分かった。常緑の多年草。



写真は 14 7/8

**ニラ** ユリ科 花期；8~9月 場所；東法面ヤナギ付近

『古事記』には“カミラ”の名で登場し、これがなまったという説がある。インド、パキスタン、中国、日本などに野生するといわれるが、日本のものは真の野生か、栽培されていたものが野生化したのかよくわかっていない。

ただし、東法面のニラは家庭菜園の植木鉢から捨てられて野生化したもの。草刈りで刈られたが、その後また芽を出し、蕾を付けている。

花を拡大してよく見ると、なかなか端正な美しさがあり、これが野菜とは思えないほど。

写真は 13 9/27



**ハナカタバミ** (オキザリス・ポーウィー) カタバミ科

花期；9~11月 場所；東法面の緑化ブロック根元

原産地は南アフリカのケープ地方。日本へは江戸時代に観賞用として渡来した。多年草。

もともとは園芸品種、東法面のバス停裏付近の緑化ブロックに植えられたつつじの土とともに当地に運ばれ広がったもの。毎年、濃いピンクの大きな花をつけ、緑化ブロックの根元や周辺を美しく飾っている。しかしながら時々草刈りで刈りはられる。今年もほとんど根こそぎ刈られてしまった。しかし、まだ根が残っているので1~2年もすれば回復するだろう。

写真は 14 9/26



**ヒガンバナ** (別名マンジュシャゲ) ヒガンバナ科 花期；9月中旬 場所；東法面1号棟東方付近

名は秋の彼岸のころに花が咲くことによる。葉のある時期には花は咲かず、花期には葉がないのが特徴。田のあぜや土手などに群生する多年草。ただし、当地のヒガンバナは人が植えたもの。

葉は晩秋にのびはじめ、冬を越して翌年の春に枯れる。だから、8月にはその場所に何の痕跡もないが、9月に急に芽を出し、中旬の短い期間だけ花を咲かせて、散ってしまう。



(左) 中旬に芽がのびて 13 9/16

(中) 一斉に咲きだした 13 9/24

(右) 彼岸花の花 (左)

彼岸花は在来種ではなく、古い時代に中国から渡来した帰化植物と考えられている。

**ヒメジョオン**（姫女苑） キク科 花期；6～10月

北アメリカ原産の1～2年草。明治維新のころ渡来し、現在では日本中に広がり、市街地や農村だけでなく、亜高山帯にまで入り込んでいる。

頭花は直径2センチで、ハルジオンより花はやや小さい。ハルジオンの花が薄く紅紫色をおびるのに比べ、ほとんど白色。茎の中身が詰まっている。

この花があたり一面広がっていると、“荒れて、むさくるしい”感じがするが、ヒメジョオンが日本に入ってきた当時は、柳葉姫菊と呼ばれ、珍重されたらしい。 写真は 15 7/27



**ヒメヒオウギズイセン**（姫緋扇水仙） あやめ科

花期；6～8月 場所；中央広場、10号棟北側法面など

ヨーロッパでヒオウギズイセンとヒメトウショウブとの交雑により作られた園芸品種といわれている。明治中期に渡来し、暖地に野生化している。 写真は 15 7/20



**ヒルガオ** ヒルガオ科 花期；6～8月

場所；北側駐車場緑化ブロックの上など

名は花が昼間咲くことによる。日当たりのよい野原や道ばたなどに生えるつる性の多年草。

写真は 14 7/26

**ヘクソカズラ**（別名ヤイトバナ、サオトメカズラ）

アカネ科 花期；8～9月

何とも気の毒な名前であるが、その臭気に気づけば、この名前もなるほどと思える。ただし、この臭気も花や葉、果実をそっとかいただけでは臭わない。もんだり、つぶしたりして初めてにおう。

別名のヤイトバナは花の中央部がヤイト（お灸）のあとに似ているから。サオトメカズラ（早乙女葛）は花の姿を早乙女のかぶる笠に見立てたもの。

日当たりのよいやぶや草地、土手などにごく普通にみられるつる性の多年草。 写真 13 8/26



**ヘラオオバコ** オオバコ科 花期；6～8月

葉の形から名付けられた。ヨーロッパ原産の1年草で、江戸時代末期に渡来したといわれる。現在では各地の道ばたや荒地、牧草地などに帰化している。特に北海道に多い。

当地でも地方へ行っても、目につくのはヘラオオバコで、在来種のオオバコはほとんど見つからない。  
写真;ヘラオオバコ 15 7/27



**ホタルブクロ** キキョウ科

花期; 6~7月

場所; 中央広場、給水塔東側、  
北駐車場と進入路の間など

ぶら下がって咲く花を提灯に見立てて、火垂(ほたる、提灯の古語)をあてたという説と、子供が花の中に蛸を入れて遊んだからという説がある。



チョウチンバナ、ツリガネソウ、トックリバナなど、この花の特徴をとらえた方言名も多い。山野や丘陵に生える多年草。当地にも何か所かに生えている。 写真 15 6/10

**マツヨイグサ** アカバナ科

花期; 6~9月 場所; 10号棟  
西側陸橋の先の植え込みの中

チリ原産の2年草。マツヨイグサの仲間では最も早く渡来したといわれる。次項のメマツヨイグサに比べ、高さは0.3~1メートルと低く、花は直径3~5センチとやや大きめ、黄色い花はしぼむと赤くなる。



写真; 13 8/26 7:25 赤みをさして、閉じかかってきたマツヨイグサ

こちらは自然に生えたのではなく、2~3年前に植えられたのが残っていて、咲いているようだ。

**メマツヨイグサ** アカバナ科 花期; 6~9月

場所; 10号棟西側陸橋の前後や旧わんにゃんフェンス沿い

北アメリカ原産の2年草。明治中期に渡来し、各地の道ばたや荒れ地、河原などに野生化している。

高さは0.5~1.5メートルとなるが、花は直径2センチほどで小さい。花は黄色でしぼんでも赤くならない。

日没1~2時間後に開き、日の出から1~2時間後にしぼむようだ。

写真 14 8/24 7:28



**マンネグサ** ベンケイソウ科 花期; 6~7月

場所; 1号棟北側駐車場擁壁上など

岩礫地帯や乾燥地を代表する植物で、肥厚した根や多肉質の葉など、乾燥に適應した形態を持つ。

マンネグサにも様々な種類があるが、当地のものはヨコハママンネグサのように見える。

写真 14 7/15

**ミズヒキ** タデ科 花期；8～10月 場所；北東法面付近など

花序を上から見ると赤く、下からは白く見えることによる。林ややぶのふちなどにふつうに生える多年草。神社などで縁起植物として植えられていたのを見たことがある。

花が小さいので、開花の状態など観察するにはルーペが必要。



(左) 開花 15 8/16 (中・右) 14 9/26

**ムラサキカタバミ** カタバミ科 花期；5～7月

南アメリカ原産の多年草。観賞用に輸入されたものが野生化し、関東地方以西に広く分布している。花は結実せず、地中の鱗茎によってふえる。

イモカタバミのように群生しないで、ところどころに生えている。花は赤みが控えめで清楚な感じがする。

皇居でこの花の群生を見たことがある。 写真 14 7/15



**ムラサキツメグサ** (別名アカツメグサ)

マメ科 花期；5～8月

牧草として明治初期に渡来し、全国に野生化している多年草。ヨーロッパ原産。

鶴牧東公園の敷地に群生していたが、今年の猛暑で枯れて、刈りこまれた。

写真 15 7/27

**ヤブガラシ** (別名ピンボウカズラ)

ブドウ科 花期；6～8月

地下茎を長くのばし、やぶを枯らすほど盛んに繁茂することによる。手入れの悪い、貧乏くさいところに繁茂するので、貧乏蔓ともいう。

当地でも、よく低木の上に被さるように生えているのが見られる。

(左) ヤブガラシの花 13 8/20

(右) 他の植物に覆いかぶさるヤブガラシ 14 8/4





**ヤブラン** ユリ科 花期；8～10月

山野の木陰に生える多年草。花茎は高さ30～50センチになり、薄紫色の小さな花が総状に多数つく。居住区内にも、法面にも見られる。

写真;13 8/26

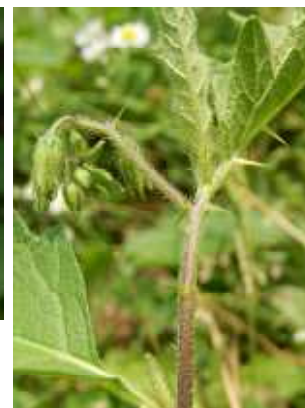


**ワルナスビ** ナス科 花期；6～10月

北アメリカ原産の多年草。名は、とげが多く、始末に困る害草であることによる。昭和初期に関東地方南部で気づかれ、その後暖かい地方へ広がった。当地でも居住区や法面に広がっており、見つけたら早めに抜いたほうがよい。ただし、トゲに注意

(左) ワルナスビの花 15 7/27

(右) 茎にも葉にもするどい棘がある。



**〔低木編・追加〕**

**ムクゲ** アオイ科 花期；8～9月 落葉低木～中木 場所；北駐車場と進入の間

中国原産説と原産地不明説がある。真夏に花径6～10センチの鮮やかな色の花を咲かせる(当地のは白花)。花は朝咲いて夕方には枯れてしまう短命な一日花だが、次々と咲き続け、3カ月以上は楽しめる。多くの園芸品種があり、色も紅、ピンク、紫、白など、花形も一重、半八重、八重咲きなど多彩。



写真は 15 8/16 ムクゲの花と葉と木の様子

〔草花・園芸種〕

〔花壇の花〕

写真は 15 年 7/20, 8/16 に撮影

**サルビア** シソ科 花期；7～10月 ブラジル原産

唇形の真っ赤な花を咲かせる。花は1日で終わるが、基部にある萼(がく)がいつまでも色あせずに残り、秋の深まりとともにいっそう鮮やかになっていく。



**ジニア(ヒャクニチソウ)** キク科

花期；7～10月 メキシコ原産

和名の名は、花が長持ちするのでこの名がついた。メキシコ高地を原産地とする1年草で、春まきの代表的な夏の草花。

**シロタエギク** キク科 観賞期；11～4月 地中海沿岸原産

春まき2年草。葉は細かく切れ込み、白い綿毛におおわれ、全体が銀白色で美しい。黄色の花がつくが、小さくて観賞用の価値は低い。それで、花は切り捨て、銀白色の葉を楽しむ。

植柵の中央、白い葉がシロタエギク



**ペチュニア(ツクパネアサガオ)**

ナス科 花期；5～11月

ブラジル南部とアルゼンチン原産

現在栽培されているのは、いくつかの種の交雑によってできた園芸種。春まきの1年草として育て、夏の花壇を彩るが、花は雨に弱く傷みやすいのが欠点。

**ポーチュラカ(ハナスベリヒユ)**

スベリヒユ科 花期；6～9月 南アメリカ原産



マツバボタンの仲間で、カラフルでかわいらしい花が地面を覆うように咲き広がり、花壇に群植すると見栄えがする。日光が大好きで、光線不足にすると花が咲かない。

**メランボジウム** キク科 花期；6～11月

メキシコを中心にアメリカ大陸の熱帯～温帯地方の原産  
花壇の中に「ミニひまわり」と表示されている。春まき1年草。  
夏の暑さに強いので、花壇やプランター、コンテナで楽しむのに最適。  
淡緑色の葉と明るい黄色のかわいい花のコントラストが美しい。



〔その他居住区内〕

**アガパンサス** ユリ科 3号棟北側

南アフリカ原産の多年草で、寒冷地を除けば、庭植えのままで越冬できる。ムラサキクンシラン（紫君子蘭）の名もあるが、クンシランと同じ仲間ではない。

写真はアガパンサスの花 (14 7/15)  
と3号棟北側の状態 (17 7/2)



**タマスダレ**

ヒガンバナ科（またはユリ科）

花期；7～10月

場所；2号棟西側

中央・南アメリカ原産の多年草。和名の由来は、白い小さな花を「玉」に、葉が集まっている様子を「すだれ」に例えたことによる。

別名のレインリリー（雨ユリ）とは、近隣種の総称で、まとまった雨後に一斉に花茎を伸ばし開花することによって由来する。草刈りで根元から刈られた後、2本だけ花茎を伸ばし花をつけたが、短期間で散った。

写真 (左) タマスダレの花 15 8/4 (右) 2号棟西側に植えられている (14 8/18)

**ハウセンカ** ツリフネソウ科

花期；6～9月 場所；居住区内

インド、中国南部、マレー半島原産とする1年草。江戸時代に渡来し、今では花壇や庭にふつうに植えられている。果実に触れるとパチンとはじけて種が飛ぶので、子供にも人気の草花。



(写真) 5号棟北東 15 8/4



**マツバギク** ツルナ科 花期；5～7月 場所；居住区内敷地の角など

南アフリカのケープ地方原産の多年草。寒さに弱く、霜の下りない地方に植えられている。茎はよく枝分かれし、石垣などに植えると、垂れ下がってみごとな株に育つ。

(写真) 14 8/4

夏の植物に親しむ・植物観察チェック表 2015年8月

	観察できる花	これからの花	花は終り	実	備考
中央広場	花壇の花 シモツケ			オニグルミ カキ カマツカ	
1号棟北側	マンネングサ			ウメモドキ	
8号棟・南	オーニソガラム			サザンカ ツバキ ハナミズキ	花壇から飛び出した花
8-9号棟北				イヌシデ ムラサキシキブ エゴノキ ナツツバキ	
6号棟・東	サルズベリ		ハクチョウゲ	サンショウ センリョウ ツバキ ナンテン	位置のみ紹介
4号棟・東			ハクチョウゲ	オオバイボタ	位置のみ紹介
団地南入口	ウリクサ フヨウ アベリア		コバンソウ		位置のみ紹介
東法面		ハナカタバミ		モミジ ハナモモ(落果)	位置のみ紹介 捨てられて根付く
	ニラ				
		ゲンノショウコ		ブルーベリー	位置のみ紹介 試食
		ヒガンバナ			位置のみ紹介
			ヤマアジサイ・白舞子		
北東部から北側駐車場へ				ミカン シラカシ アラカシ	寸詰まりのドングリ 寸詰まりのドングリ
	ハギ ムクゲ ヒルガオ				
北東法面・歩道沿い 北進入路わき	ミズヒキ ヤブラン				
北法面 9-10号棟北	キツネノマゴ タカサゴユリ ハギ			サルトリイバラ	参考
10号棟西・陸橋	メマツヨイグサ マツヨイグサ	イタドリ			花は見られない 花は見られない



**【 参考書 】**

葉っぱ・花・樹皮でわかる樹木図鑑 池田書店

大人の園芸 庭木・花木・果樹 小学館

山溪ハンディ図鑑1 野に咲く花 山と溪谷社

山溪ハンディ図鑑3 樹に咲く花 離弁花1 山と溪谷社

山溪ハンディ図鑑4 樹に咲く花 離弁花2 山と溪谷社

山溪ハンディ図鑑5 樹に咲く花 合弁花・単子葉・裸子植物 山と溪谷社